



エコ・ファーストの約束（更新書）

～環境先進企業としての地球環境保全の取り組み～

令和8年8月12日

環境大臣 石原 宏高殿

富士通株式会社

代表取締役社長CEO

時田 隆仁

1. 事業拠点のGHG排出量を2030年度末までに実質ゼロにします

設備の電化、脱炭素燃料への転換、高品質なカーボנקレジットの活用などの先進的なアプローチにより、拠点の状況に応じた最適な脱炭素技術の戦略的導入を検討することで、次世代型の脱炭素モデルの構築を進めます。事業所やデータセンターのカーボンニュートラル化を推進し、GHG排出実質ゼロを目指します。

2. 追加性のあるPPAなど質の高い再エネの利用を拡大し、事業活動で使用する電力を2030年に再生可能エネルギー使用率100%とします

RE100加盟企業として、2030年の事業活動における再生可能エネルギー使用率100%達成に向け、単なる非化石証書による調達だけでなく、PPA等の新たな電源調達手法の活用を組み合わせ取り組んでいます。

3. GHG排出量をバリューチェーン全体で2030年度末までに2020年度比42%以上削減します

サプライヤーやお客様を含むバリューチェーン全体での再エネ利用拡大と省エネ推進による削減効果を定量的に把握し、自社だけでなく社会全体のGHG削減を推進していきます。先進的なデジタル基盤の活用により、バリューチェーン全体のカーボンニュートラル化を加速し、社会全体のGHG排出削減への貢献を目指していきます。

4. バリューチェーンを含む自社の企業活動の領域において、生物多様性への負の影響を42%以上低減、加えて正の影響を増加させる活動を推進します

CO₂削減など環境負荷（負の影響）の低減に加え、Fujitsu Technology Park（本店）再開発のランドスケープ設計による生息空間拡大など、生物多様性の正の影響を増加させていきます。

富士通グループは、上記取り組みの進捗状況を確認し、その結果について環境省へ報告、ならびに定期的にレポートなどによる公表を行ってまいります。

